

論文要旨

所属ゼミ	小林 研究会	学籍番号	80128551	氏名	竹下 将司
(論文題名)					
規模型産業における新規事業戦略の分析ならびに提言					
(内容の要旨)					
電力小売一部自由化による競争原理の導入、電力需要の伸びの鈍化、エネルギー間競争の本格化という環境の変化にさらされた既存電力会社は、今後、生き残りをかけて電気事業以外の新規事業を開発・参入していき、その成功により企業構造を変革していく必要がある。本論文は、既存電力会社による新規事業はどのようにすれば成功させることができるのか、また、成功させるためにはどのような戦略を構築していかなければならないのかということを明らかにし、既存電力会社として私の派遣元である東京電力への提言を行うということを目的としている。 研究方法としては、東京電力と同様に、企業構造の変革を目的として多角化を行った企業の中で、同様の背景（事業特性・資産規模）を持つと考えられる規模型産業の9つの事例を取り上げ、その新規事業事例をアンゾフの成長マトリックスの概念を用いて、（タイプ1）市場開発、（タイプ2）製品開発、（タイプ3）多角化の3つに類型化を行うとともに、①新規事業分野の設定・開発（PLAN）、②内部環境要因（STRUCTURE）、③外部環境要因（POSITION）、④パターン（PATTERN）、という4つの視点を取り入れた、「3P+Sフレームワーク」を構築し、分析を行った。この事例研究で行った分析をもとに、新規事業のタイプ別に各フレームワークにおけるKSFを抽出した。 次に、東京電力の組織上の特徴と新規事業の現状とその問題点についてインタビュー調査・分析を行うとともに、事例研究で抽出した結論と東京電力の新規事業における問題点の2つの要因に基づき、類型化に基づいたタイプごと事業戦略とそれを統括するための企業戦略について提言を行った。 今回の論文では、東京電力における新規事業を成功に導くためには、個々の事業戦略の明確化を行うだけでなく、全社レベルの企業戦略において、「相互学習」によるスキル移転や活動の共有が図られる仕組みづくりが最も重要なことであるという結論に達した。					